育成会 かわさき

知的障害者親の会　会報　No.222

2026. 11. 1

川崎市への令和９年度施策要望書提出

川崎市育成会手をむすぶ親の会
会　長　　加藤　敦子



朝夕の空気が冷たくなり、冬の気配を少しずつ感じるようになりました。会員の皆様におかれましてはお健やかにお過ごしでしょうか？いつも当会の活動にご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。

さて、８月１８日（火）川崎市に「令和９年度施策要望書」を提出しました。今回は、新規の要望として「障害の程度に関係ない医療費の助成について」を加えました。年齢を重ねると共に身体的な衰えが出てくるのは障害者も同じです。しかし、工賃や障害基礎年金という多くはない収入の中で、医療費が増えていくことに不安を覚える親は少なくありません。予算的なことなど、様々な壁があることは承知しておりますが、まずは、このような不安や要望があるということを知ってもらい、今後の検討課題と認識していただきたいと思います。

現在、強度行動障害や医療的ケアなどに関して専門的な知識を持つ支援員は多く求められていますが、人材不足ため適切な支援を受けられていない障害児者がいます。そのための専門研修は今後も実施していく予定とのこと。また、支援者が孤立することで不適切な支援や虐待に繋がらないよう、支援者同士が顔の見える関係を作る「障害者相談支援ネットワーク会議」を実施しているそうです。これはとても大切なこととして伺いました。

川崎市が他の自治体に比べて計画相談のセルフプラン率が高い問題について、原因究明と対策の説明がありました。相談支援専門員の増員、相談支援に関わる事業所が採算とれるようにするための補助金の検討、新たに今年度からセルフプランの利用者と相談支援事業所をマッチングする事業にも取り組んでいるそうです。相談支援事業の拡充については、障害児者が地域で安心して暮らしていくために必要不可欠なことです。今後も、川崎市や市議会に要望を出し、改善に向けた意見交換を行っていきます。

「令和９年度施策要望書」について、詳細は当会ホームページに載せてあります。会員の皆様も、要望やご意見があれば当会までお寄せください。よろしくお願い申し上げます。

ホームページ

「川崎市育成会手をむすぶ親の会」で、検索してください。



かわさきキャラバン隊講演　７月２３日

権利擁護副委員長　　西澤　知子



鎌倉市社会福祉協議会主催の夏休み子ども福祉体験の一環として、「かわさきキャラバン隊知的発達障害疑似体験」を行いました。

猛暑の中、小学生４名と高校生ボランティア４名、保護者やその他のボランティアさんを合わせて２０名ほどの参加でした。参加者から、身体的障害と違ってどのような形で疑似体験をするのか、興味があったという声がありました。

小学生向けのプログラム４つと朗読をしました。皆さん積極的に参加してくれました。

最後の感想では、自らの体験と照らし合わせて「ふつうでないと言われることも個性なんだと安心した」という話や、「不自由なことも個性なんだ」「周りと違うことが怖かったけれども個性であると思えた」など、前向きな言葉に力をいただきました。その上「今度は大人向けにも疑似体験の講演をお願いします」「とてもわかりやすかった」等、応援の声もいただき、この体験が知的発達障害の理解に繋がると確信した時間でした。



かわさきキャラバン隊では、随時隊員を募集しています。活動にご興味のある方は、当会ホームページのお問い合わせからお気軽にご連絡ください。

海水訓練『三日月シーパークホテル安房鴨川　ガーデンスパ三日月』

余暇活動委員　　小澤　千枝



７月１５日（水）海水訓練を行いました。参加人数は会員３７名、ボランティアさん１１名、計４８名です。蒸し暑い天気の中、福祉バス２台で各配車場を出発しました。

ホテルに到着後は参加者とボランティアさんの顔合わせをして、本人の特徴や気をつけてほしいことを保護者から伝えました。ボランティアさんの支援で水着に着替え、いよいよプールに移動です。内部は広く、思いのほか明るくて水がきらきらとしています。屋外プールもあって、その先は太平洋です。ボランティアさんとプールの中を一緒に歩いたり、浮き輪につかまって泳いだり、滑り台から水の中へ滑り下りたり、思い思いに楽しみました。

プールの後は「鴨川シーワールドホテルレストラン」へ移動しました。ボランティアさんの自己紹介と加藤会長のあいさつの後「会席料理　黒潮」を食べました。お刺身、てんぷらなど海鮮のお料理で、千葉の名物なめろうもありました。運動してお腹が空いているので、皆さんお箸がすすんでいました。昼食後は「道の駅たけゆらの里おおたき」に寄り、「海ほたる」で最後の休憩をして解散し、それぞれ帰路に着きました。

今回は「また参加したい」と言ってくださるボランティアさんが多く、嬉しく思いました。会員とボランティアさんがともに過ごす大切な機会になるので続けていきたいと思います。

支部通信

おしゃべり多摩　９月１１日（金）

多摩支部長　　神田　明子



支部の方、当会の役員、他区の方も集まり、１３名の参加がありました。

きょうだいの方から親とは違う目線でのお話を聞くことができました。行政や銀行などで手続きをする際、身元確認などの手続きできょうだいであることを証明しなければならず、とても手間がかかるということを知りました。

次に成人すると ETC 用のクレジットカードは本人名義で作らなくてはならないとのことで、どこの会社にしたか、家族カードなら簡単ではないかなどの話になりました。

他にも区分認定調査の区分が前回と違った場合の不服申し立てに関しての話や学校時代のバザーの思い出話など様々な話題をおしゃべりしました。

あさお語ろう会　９月２９日（火）

麻生支部役員　　熊谷　百合子



すっかり私たちの安定の居場所になっている、特定非営利活動法人ぶらりば『コミュニティカフェ Lien（りあん）』で開催しました。日替わり弁当「生姜焼き」やシフォンケーキとコーヒーをいただきながら、久しぶりの皆さんと６名でおしゃべりを楽しみました。近況報告としばらくお会いできない会員の方たちの情報のほか、今後のこと（将来）についての話題になりました。集まって話せることは恵まれていると実感しました。

若いつもりでいても、いつのまにか年齢を重ねていくことを受け止めながら、わが子にとっての親亡き後のこと、その前段で自分の親亡き後のあれこれの始末にも話題が及びました。最近では、５０・８０問題と言われていたことが、６０・９０問題になっています。近い将来１００歳の親に７０歳の障害がある子どもってことも…思わずため息が出てしまいます。

これからの会の活動も、「それぞれの老後」を考え合う時間が増えてくるのかもしれません。それに伴い、家族だけで考えられない場合の仕組みや支援も必要になるのだろうと真剣に考えました。閉会の前に、ハーモニカの伴奏で歌を歌って、なんとも穏やかな時間でした。次回は半年後３月３０日（火）に開催します。

高津わいわい茶話会　９月３０日（水）

高津支部長　　三浦　ルイ子



あいにくのお天気でしたが、「高津わいわい茶話会」を福祉パルたかつ研修室で行いました。加藤会長をはじめ役員の皆様、会員を合わせて１０名の参加でした。

皆様から近況報告をしていただきました。子どもの健康問題の話が多くありました。

「痛風」「糖尿病」「肥満」「ぎっくり腰」などの心配事の話が多くあり、状況・対処の情報交換をしました。病院での受診・問診では、受け答えの難しさや痛みの有無の伝え方など様々です。また、通所施設での運動にも話が広がりました。

あっという間に終わりの時間になり、親の会主催の研修会などのお知らせをしました。

久しぶりの茶話会でしたが、皆さんとわいわいと賑やかに、おしゃべりを楽しみ有意義なひとときでした。

支部通信

中原支部懇親会　１０月６日（火）

中原支部長　　西澤　知子



秋晴れで気温の上がっていく中１４名の参加を得て、福祉パルなかはら１階研修室に於いて、懇親会を開催しました。

加藤会長はじめ三役にご挨拶をいただき、支部会員の皆さんの現在の状況や悩みについて語り合いました。

今回は、兄弟の立場で後見人を務める方の参加もあり、貴重なお話が聞けました。障害のある子を残して親は亡くなり、兄弟が保護者となる場合もあることや血縁関係のない後見人が障害者の財産や権利を守る立場になる現実を、事例を交えてお話ししていただき身近に感じました。

法改正もあります。親亡き後とは言わず親の支援なき後のことを、先延ばしにしている現状を憂慮するばかりでなく、これからも勉強をしていかないといけない問題だと思いました。

子どもの年齢によって悩みは変わりますが、話していくうちに親子とも健康であることが何よりであると、改めて感じました。また、不調があった場合診察を受けるにも、細やかな対応をしている先生や病院等の情報交換もできました。

人との出会い、繋がりが大切です。顔を合わせて話せることで安らぎを得られる気がしました。また、来年度も集まる機会を持ちたいと思いました。

幸支部懇親会　１０月９日（金）

幸支部役員　　三浦　ひろみ

さいわい健康福祉プラザにて、懇親会を開催しました。ようやく雨や暑さも落ち着き、秋らしい爽やかな季節となり、支部会員の皆様とお会いできることを楽しみにしておりました。しかし、今回は支部役員３名のみの参加となり、残念な結果となりました。

会員の皆様の高齢化が進む中、親の体調不良についてのお話を耳にする機会も増えてきました。「親亡き後」の子どもの生活は、もちろん親にとって最も大きな心配事であり、関心事でもあります。



一方で、親自身も年齢を重ね、体力の低下などにより、以前のようには身動きが取れなくなっているのではないかと心配される、今回の懇親会となりました。

今後も懇親会を継続して開催してまいります。次回はぜひ多くの会員の皆様にご参加いただき、お互いの近況や思いを語り合える機会になればと願っております。

川崎市育成会・やまゆりとの共催研修会

日　　時　　２０２６年2月１９日（金）　１０：００　～　１１：４５
場　　所　　川崎市総合自治会館ホール　　（受付　９：３０～）
テーマ　　未　定
講　　師　　又村　あおい 氏（全国手をつなぐ育成会常務理事兼事務局長）
※　詳しくは１２月に配布されるチラシをご覧下さい。

施設紹介
社会福祉法人セイワ「川崎授産学園」



９月２日（水）麻生区細山にある「川崎授産学園」の見学に行きました。川崎授産学園は、１９８１年設立の旧館から今年６月１日に４階建ての新館へ移転し、多機能型拠点施設になりました。旧館跡地に約２年後の完成を目指して体育館を建設中。厨房で全フロアの食事を一括調理しています。

《各フロア紹介と利用状況》

・１階２階（生活介護・就労支援・地域交流・厨房・事務所など）

①生活介護（つつじ工房）‥現在４９名（今年度は５５名予定、建物の構造上は最大８０名まで対応可能）利用時間は９時～１６時。１階２階に配置

②就労継続支援Ｂ型‥現在１１名（定員１２名、最大で２０名まで拡大予定）２階に配置

③軽作業室‥入所者（つばき寮）が作業活動を行う専用部屋を２階に確保

④市民交流スペース‥地域住民に開放（研修室、サークル活動室、茶室）など。講座やボランティア活動等で利用者との交流を図る

・３階４階（施設入所：つばき寮）

①定員‥３階男性：２５名・４階女性：２５名

②高齢化への対応‥利用者の平均年齢は５７．６歳。全体の１/３が４５年前の開設時からの利用者のため、バリアフリーや安全面に配慮

③感染症対策の強化‥フロアがＡ・Ｂブロックに区切れるようになっており、施錠・閉鎖できる構造にしている。各ブロックに専用トイレを設置

・その他の設備・事業

①短期入所（ショートステイ）‥男性１０名・女性１０名。３階４階のつばき寮内に配置。８月実績で３６名が利用。徐々に受け入れ人数を増やしていく予定

②日中一時支援（さつき）‥新館移転に伴い６月より新設。夕方（１７時～１９時）の時間帯に２階の一角で実施。外部作業所からの受け入れや送迎対応を調整中

③天体観測設備‥３階に天体ドーム（望遠鏡）と広いルーフテラスを設置。旧館より望遠鏡を移設。地域の専門同好会と連携し、年４回ほどの天体観測イベントを実施

《質問事項など》

①つつじ工房‥平均年齢は約３８～４０歳。敷地奥にある裏山を活用し、午前中は野外で体を動かす「腐葉土作り作業」を行っている。足腰が丈夫な方や、のびのび過ごしたい方に適した環境。午後は個別作業や音楽活動などの室内プログラムを実施。

利用者の活動時間を確保するため、送迎はポイント送迎で、新百合ヶ丘駅、栗平駅、稲田堤・矢野口方面、向ヶ丘遊園駅など４コースです。

②つばき寮‥利用者の障害支援区分は平均５．５（区分５～６の重度の方が中心）高齢化が進んでおり、最高齢は男性８７歳、女性８３歳。元気に過ごされている方が多いが、状態に応じて介護保険施設への移行切り替え事例もある。



通院時の対応については、看護師が３名配置されているので付き添うほか、支援員が対応する場合もある。緊急時は施設で対応し、入院時は保護者が対応している。

週末と休日については、親の高齢化などにより、自宅へ帰る方は全体の約１/３に減少している。ヘルパーを利用して外出する方も１０名程度いる。施設で過ごす方にはイベントや車で外出、映画鑑賞や長めの入浴など飽きずに楽しめる工夫をしている。（三浦 ひろみ）

グループホーム紹介
社会福祉法人育桜福祉会『生活ホームいくおう・上作延』



９月８日（火）「生活ホームいくおう・上作延」の見学へ行ってきました。高津区の閑静な住宅街にある、定員５名、男性を対象としたグループホームです。

１．建物・間取り・利用している方について　利用者家族のご自宅を改装した平屋の６ＬＤＫ（うち１室は世話人室)、バリアフリーな作りです。玄関を入ると広いリビングダイニングが広がり、窓も大きく明るい雰囲気が印象的でした。トイレは２つあり、うち１つは車椅子も利用可能な広い作りになっています。同様に洗面所や浴室も広い作りとなっており、浴槽は男性も足を伸ばしてゆったり入れるサイズです。ネットワーク環境はありませんが、希望があればとのことでした。利用者は障害支援区分５～６で、年齢４０～６０代。日中は徒歩で通える同法人の施設へ通所しています。

２．サポート体制について　世話人６名と「生活ホーム運営センター」のサービス管理責任者、支援員、介助員などのスタッフがチームで支えています。食事の支度や洗濯、掃除など、身の回りのことは基本的に世話人が行います。こちらの法人では、川崎市の南北に各１カ所、「生活ホーム運営センター」を設置し、ホームの統括的な役割をしています。これにより緊急時も対応できる体制にしています。

３．１日の流れ　【平日】朝は６時前後に起床。朝食、身支度を済ませ９時２０分頃通所先へ出発。夕方は１６時頃ホームへ戻り、入浴，夕食を済ませると就寝までは自由時間。【休日】自宅へ帰る、ホームで過ごす、ヘルパーと外出する人それぞれに過ごします。

４．食事について　平日は朝夕、休日はこれに加え昼食も提供。配食業者を利用しつつ、ご飯と味噌汁は世話人が作ります。定食のように盛り付けて出してくださるそうで、たくさんある食器も見せていただきました。食事の場所はリビングと自室で希望に合わせてとっています。

５．医療管理について（通常の通院や緊急対応等）　通常の通院は生活ホーム運営センターが対応しますが、緊急時は通所先，世話人と連携し、臨機応変に対応しています。日常の健康管理は通所先の看護師が担っており、関係各所で情報共有されています。

６．１か月の費用　家賃+水道光熱費４４，３００円（家賃助成適用後）＋食費３０，０００円＋生活費５，０００円～２０，０００円。生活費については、ヘルパーとの外出等ライフスタイルにより変動があります。その他急な出費の際はご家族に相談させていただきます。



７．その他　地域とのつながりを大切にされており、お祭りや地域清掃など地域活動への参加、また地域連携推進会議では町内会や民生委員の方をホームへお招きするなど、“地域の方に知ってもらう活動”も積極的に行っています。

紙面の都合で紹介しきれないのが残念なほど、他にもエピソード的な話を交えながら、ホームでの生活の様子をたくさん聞かせていただきました。　（木村　益美）

自由投稿

多機能型地域生活支援拠点「石神井いとなみの起点」見学

加藤　敦子



８月に以前から気になっていた施設「石神井いとなみの起点」に行ってきました。この施設は、東京都手をつなぐ育成会が東京都練馬区に５月から開所した多機能型地域生活支援拠点施設です。場所は西武池袋線石神井公園駅から徒歩５分ほどの好立地で住宅街の静かな場所に建ち、モダンな印象の外観でした。

建物入口に「ご自由にお入りください」との案内があり、地域交流スペース「ひととま」に入りました。室内はとても涼しく、テーブルや椅子の他、子どもが遊べるスペースや読書や自習ができるカウンター席のスペースがあります。屋内の写真を撮るため事務所に声を掛けると、思いがけず施設長が出てきて施設内を案内してくださいました。

ここにはグループホーム「りーふぱす」が入っています。定員は宿泊体験１名を含めて１６名、現在の利用者は全員区分６だそうです。室内外ともに作りは木目調の温かい雰囲気。部屋は身体障害も想定した広さがあり、トイレの手すりなどには使いやすいさを考えたこだわりが見られました。また、強度行動障害の利用者にも対応できる環境や動線が工夫されていました。個々の利用者の暮らしやすさを第一に考え、「このような施設にしたい」という運営側の思いが伝わってくる施設でした。



ショートステイはこれから稼働されるそうですので、今後どのような施設になっていくのか、期待を込めて見守りたいと思います。

元々生活介護事業所があった場所なので、近隣の商店街や住民などの理解があり、とても暮らしやすい地域だそうです。長い年月をかけて、地元との繋がりを大切にされてきていたことが窺えました。それぞれの地域によって事情は異なりますが、多機能型地域生活支援拠点施設の見本の一つとして大変参考になると思いました。

今の心配事と将来のこと

１人息子は重度の知的障害を持っています。地域の小学校から支援学校の中学部、高等部へ進学して今は高校生です。最近は一段と大人の顔つきになってきました。

思春期に入り、イライラしつつ自己主張が強くなり、同行者を待てずに一人で何処かに行って迷子になってしまうことがあります。本人にはこだわりがあり、一段と対応が難しくなっています。出来ないことに納得したり、こだわりに折り合いをつけることなど融通の余地は少なく、結局は親が折れています。

例えば、洗濯物は夕方には取り込まなければいけないと思っているようで、雨の日で乾いていなくても夕方には片づけたくなってトラブルになります。洗濯物を運んでくれて嬉しいのですが…。先輩保護者のお話では数年で収まるようですが、どうしたものかと思案に暮れます。



卒業後の進路や１８歳の壁で利用できなくなるサービスがあるのも気になっています。卒業前後には区分認定と障害年金の申請がありますし、成人になるので親が代理でできなくなる手続きもあります。また、両親が入院などの事情ができたときのためにショートステイの体験を始めようとしています。無事に慣れてと祈っています。

（M・T）

すったもんだの毎日

娘はいつも、体操着入れくらいの巾着袋に「お気に入り」をパンパンに詰めて、自分の近くに常に置いています。家の中を移動する時も、外出する時ももちろん一緒。小さいころからコレクター気質というか、お気に入りを集めるのが大好きでした。商品の箱や袋、カタログ、取扱説明書などとにかく「お気に入り」がいっぱい。味噌汁やふりかけ、マカロニや鍋つゆ、レトルト食品やお菓子のパッケージは特に大好きで、選ぶ基準も「食べたい」ではなく「このパッケージが欲しい」。中身には興味がありません。

大人になった今は、ハンカチ、タオル、ふきん、枕カバーなど、お気に入りがさらに増加中。どの引き出しに何が入っているかも把握していて、毎日せっせと袋の中身を入れ替えています。洗濯して片づける⇒また出す⇒また入れ替える。母からすると、延々と続く謎の無限ループです。でも娘にとっては、どこに行くにも手放せない「精神安定剤」のようなものだと思います。だから、まあ…いいんです、いいんですけど…。バスタオルまで巾着袋に詰め込もうとするのは勘弁してほしい。そんな姿を見て、今日も母は小さくため息。とても困っているわけではないけれど、こういう毎日の小さいことが、地味～にストレスになったりしますよね。



「うちの子もそう！」という方がいたら、お話を聞いてみたいです。（H．M）

「第１０回手をつなぐフェスティバル」のお知らせ

障害への理解と共生を合言葉に手をつなぐフェスティバルを開催します。
川崎市内の障害者とそのご家族・ボランテイアさん・地域の方々・施設職員さん…。
皆さんご一緒に楽しいひと時を過ごしましょう！



※　当会は、会の紹介と知的発達障害疑似体験で参加します。

日　時　令和８年１１月２１日（土）１０時 ～１４時
場　所　カルッツかわさき　　入場無料　　雨天決行
　　川崎市川崎区富士見１－１－４

【お問合せ】
手をつなぐフェスティバル実行委員会事務局
電話　044-829-6610　　FAX　044-829-6620

令和８年度川崎市障害者作品展のお知らせ

障害者の創作作品を一堂に展示し、広く社会に認識してもらうことにより障害者に対する理解を深める一助とし、また、障害者の創作意欲や創作技術の向上を図り、障害者自らの生きがいづくりに繋げていくことを目的とします。

会　場　アートガーデンかわさき　第１・第２展示室
期　間　令和８年１２月１６日（水）～ １２月２０日（日）
時　間　１０時 ～ １８時　（最終日１３時まで
主　催　川崎市・川崎市障害者社会参加推進センター
出展者　市内在住・在勤・在学の障害者（グループ）
作　品　絵画・写真・書・文芸（短歌・俳句・川柳等）
　　手工芸

【お問合せ】
川崎市障害者社会参加推進センター
電話　044-246-6941　　FAX　044-246-6943



昨年度作品展の様子

ＮＰＯ法人かわさき障がい者権利擁護センター

親亡き後の成年後見・相続問題　模擬相談会

副会長　　梅田　順子



１０月２日（金）川崎市総合自治会館にて、開催されました。会場はびっしりと席が埋まり、関心の高さがよくわかりました。

第一部「成年後見制度どう変わるの？」

講師：大石　剛一郎 弁護士

大きな変更点は「補助」に一本化するところです。成年後見人を変えやすくして、必要がなくなったら制度利用をやめられるようになります。今までは一度後見制度を利用したら、ずっと続けなければならなかったのが、家庭裁判所の判断で変更や取り消しができるようになります。

現在利用している補助は新補助に移行します。保佐・後見はそのまま続けてもいいし、新補助に移行することもできます。また、必要性消滅として制度利用自体をやめることも可能です。２０２８年には施行されるとのことなので、使いやすい制度に変わりそうです。

第二部『「親亡き後」問題　総続編』

講師：神谷　直 司法書士

親が亡くなった後、子の生活を「人・お金・仕組み」の面からどう支えるかがポイントです。遺言・家族信託・生命保険の役割の違いを知って一つの制度で解決しようとしないで、それぞれのメリット、デメリットを検討し、上手に利用しましょう。

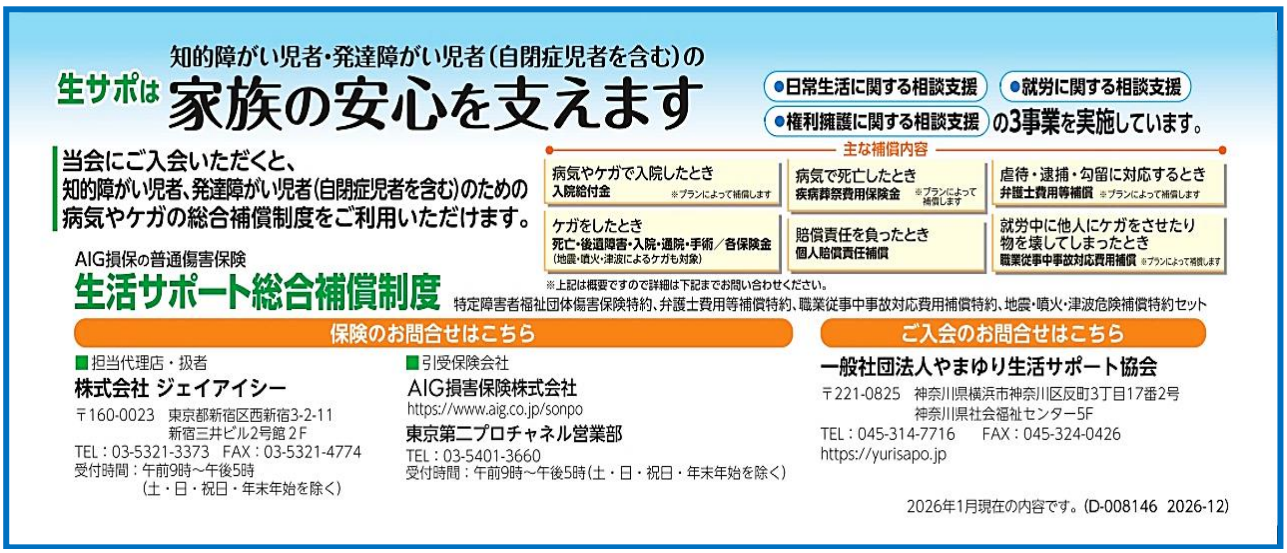
遺言書は親亡き後対策の基本となる道具です。遺産分割協議を避けることができ、慌てて後見人をつける必要がなくなります。

「渡された財産を誰がどのように管理するのか？」は大きな課題です。

第三部「障害のある人のきょうだいの悩みと課題」

田部井　恒雄 氏（全国障害者とともに歩む兄弟姉妹の会）

障害のある人のきょうだいは、普通の人とは違う家庭生活の中で悩みや不満を抱えて大人になっています。そして、そのきょうだいや親の老いへの不安もありますが、自分の生活はきちんと守られることが大切になります。障害のあるきょうだいとはそれぞれ自立した状況にあることで、きょうだいの人権も守られると思います。



2026年10月1日現在の加入者数は10,550名余です。毎月1日付で加入できます。2026年度も「生活サポート総合補償制度」をよろしくお願いいたします。

私たちの広場「川崎スポーツの会（日帰りバス研修会）」



令和８年９月１３日（日）「私たちの広場」・「優友会」のメンバーと支援者・事務局、総勢２０名で“江戸東京博物館”に行ってきました。

連日雨だったので当日も心配していましたが、つかの間の晴れ間となり気分もルンルン、高速もスイスイ。「こんなに車少ないの？」と予定どおりに両国へ到着しました。

記念撮影の後各々館内へ。まずは「お江戸日本橋」を渡り江戸の町へ。庶民の暮らしや武家屋敷の展示あり。テレビでお馴染みの「暴れん坊将軍・吉宗だね…」と見学しながら、“武家駕篭に乗ってみたり”“天秤棒を担いだり”と暮らしの体験をして楽しみました。屋台の大きな握りずしにびっくりしながら、明治の東京へ。人力車に乗り「はい、ポーズ。」



昼食は、両国駅「江戸のれん」へ。当日は、大相撲秋場所初日ということもあり、国技館の入口付近では、大勢の人だかり。場所入りするお相撲さんの姿も時折見かけ、声をかけて一緒に写真を撮ってもらいました。メンバーの中には握手をしてもらった人も。歴史と文化に触れた満足な一日となりました。

（支援者　　針木　正子）

『手をつなぐ』を購読しませんか！！

全国手をつなぐ育成会連合会発行の機関紙『手をつなぐ』は、身近な課題から障害福祉施策まで、暮らしに役立つ最新情報です。
年間購読料は３，９００円です。
関心のある方は、ぜひ、各支部役員までご連絡をお願いします。



一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会の会員様へ
手をつなぐがん保険
障害のある方とそのご家族をワイドにお守りする保険です
なぜ障害のある息子はがん保険に加入できないのでしょうか？(※)
(※)ぜんち共済お客様アンケートより
加入できます！
右記動画の中で、前会長の久保顧問とぜんち共済代表の榎本が「手をつなぐがん保険」への思いについて対談しています。また、又村事務局長による加入方法のご案内もございます。ぜひご覧ください！！
動画はこちら▶
https://youtu.be/fEq9QDNV6wM
手をつなぐがん保険 3つの特長
1 代理手続き 代理告知が可能 障害のある方向けプラン
2 告知対象疾患の緩和 障害のある方向けプラン
3 “親なきあと”に備える補償 障害のある方のご家族向けプラン
詳しい資料のご請求・お問い合わせはこちら
Z011-2409R10
関東財務局長（少額短期保険）第14号
ぜんち共済株式会社
〒102-0073　東京都千代田区九段北3-2-5 九段北325ビル4階
0120-322-150
平日10時～16時／土日・祝日・年末年始を除く
URL：https://www.z-kyosai.com/
[引受保険会社]
東京海上日動火災保険株式会社
東京都千代田区三番町6-4
TEL：03-3515-4126／営業時間：平日9時～17時
WEBからも資料請求できます！
資料請求フォーム
この広告は「手をつなぐがん保険」の概要をご紹介したものです。ご加入にあたっては、必ず「パンフレット兼重要事項説明書」をよくお読みください。「手をつなぐがん保険」は団体総合生活保険のペットネームです。ご不明な点等がある場合は、ぜんち共済までお問い合わせください。

川崎市育成会手をむすぶ親の会活動報告

《令和８年７月１６日～令和８年１０月２１日まで》

＜各種会議、行事＞

７月２３日（木）	かわさきキャラバン隊講演	鎌倉市福祉センター
２４日（金）	三役会議	オンライン
８月２０日（木）	第３回余暇活動委員会	地域福祉施設「ちどり」
２５日（火）	第２回広報委員会	地域福祉施設「ちどり」
９月　１日（火）	三役会議	オンライン
２日（水）	川崎授産学園の見学・取材	川崎授産学園
８日（火）	生活ホーム上作延ホーム見学・取材	生活ホーム上作延
１０日（木）	第４回余暇活動委員会	地域福祉施設「ちどり」
１１日（金）	おしゃべり多摩	福祉パル多摩
１５日（火）	第４回運営委員会	地域福祉施設「ちどり」
２５日（金）	第２回権利擁護委員会	オンライン
２９日（火）	あさお語ろう会	特定非営利活動法人ぶらりば
３０日（水）	高津わいわい茶話会	福祉パルたかつ
１０月　６日（火）	中原支部懇親会	福祉パルなかはら
８日（木）	三役会議	オンライン
９日（金）	幸支部懇親会	さいわい健康福祉プラザ
２０日（火）	第３回研修事業推進委員会	オンライン
２１日（水）	かわさきキャラバン隊講演（高津区社協）	てくのかわさき　てくのホール

＜対外行事＞

７月１６日（木）	障害者支援区分認定審査会	オンライン
２３日（木）	NPO法人かわさき障がい者権利擁護センター運営委員会	オンライン
２９日（水）	三団体代表者会議	地域福祉施設「ちどり」
３０日（木）	第６次ノーマライゼーションプランヒヤリング	地域福祉施設「ちどり」
３０日（木）	神奈川県警察との打ち合わせ	神奈川県警察署
８月　４日（火）	障害者団体部会	川崎市総合福祉センター
１８日（火）	川崎市への要望提出	川崎市役所本庁舎
１９日（水）	川崎市バリアフリーまちづくり連絡調整会議	川崎市役所本庁舎
２０日（木）	障害者支援区分認定審査会	オンライン
２４日（月）	二十歳を祝うつどいについてヒヤリング	川崎市役所本庁舎
２８日（金）	川崎市障害者施策審議会	川崎市役所南庁舎
９月　７日（月）	NPO法人かわさき障がい者権利擁護センター運営委員会	オンライン
１０日（木）	川崎市あんしんセンター業務監督審査会	川崎市総合福祉センター
１１日（金）	川崎市障害者社会参加推進協議会	南部身体障害者会館
１１日（金）	川崎市警察部との打ち合わせ	中原警察署
１７日（木）	やまゆり生活サポート協会理事会	かながわ県民センター
１７日（木）	やまゆり生活サポート協会三者会議	かながわ県民センター
１７日（木）	障害者支援区分認定審査会	オンライン
１８日（金）	やまゆり事業推進委員会	かながわ県民センター
２８日（月）	川崎市立中央支援学校運営協議会	川崎市立中央支援学校
２９日（火）	川崎市障害者作品展実行委員会	南部身体障害者会館
１０月　２日（金）	NPO法人かわさき障がい者権利擁護センター模擬相談会	川崎市総合自治会館
１３日（火）	川崎市障害者団体部会リーダー研修	進和ルネッサンス
１４日（水）	川崎市福祉有償運送運営協議会	川崎市役所本庁舎
１５日（木）	障害者支援区分認定審査会	オンライン
１５日（木）	やまゆり生活サポート協会監査	神奈川件社会福祉センター
１６日（金）	かわしんふれあい市場	川崎信用金庫本店
１９日（月）	川崎市バリアフリーまちづくりまち歩き点検	小田栄駅周辺
１９日（月）	川崎市障害者施策審議会	川崎市役所本庁舎
１９日（月）	NPO法人かわさき障がい者権利擁護センター運営委員会	オンライン
２１日（水）	川崎市バリアフリーまちづくりまち歩き点検	登戸駅・向ヶ丘遊園駅周辺

寄付　　梅田　俊彦　　５，０００円　　三浦　ひろみ　　５，０００円　　（敬称略・順不同）



編集後記

広報紙が発行されると、会員の方の反応が気になります。時々、訪ねて来てくれる会員さんが「あなたの名前を見つけて、読んでるよ」と言ってくださいます。私にとっては、恥ずかしくてしかたないのですが、それと同時に嬉しくもあり、活動する励みにもなっています。文章を書くことは苦手ですが、読んでくださる方のことを忘れずにいたいと思います。これからも努力しますので、よろしくお願いします。　（広報委員　　安達ゆかり）

令和８年７月２８日に発生した「令和８年熊本地震」、８月１３日（木）から千葉県・神奈川県などで豪雨による甚大な被害が発生いたしました。被災されたみなさまに心よりお見舞い申し上げますとともに一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

【も　く　じ】

Ｐ．１ ･･･川崎市への令和９年度施策要望書提出／ホームページ
Ｐ．２ ･･･かわさきキャラバン隊講演／海水訓練
Ｐ．３ ･･･支部通信　おしゃべり多摩／あさお語ろう会／高津わいわい茶話会
Ｐ．４ ･･･支部通信　中原支部懇親会／幸支部懇親会／研修会のお知らせ
Ｐ．５ ･･･施設紹介
Ｐ．６ ･･･グループホーム紹介
Ｐ．７ ･･･自由投稿　多機能型地域生活支援拠点見学／今の心配事と将来のこと
Ｐ．８ ･･･すったもんだの毎日／「第 10 回手をつなぐフェスティバル」のお知らせ
　　令和８年度川崎市障害者作品展のお知らせ
Ｐ．９ ･･･NPO 法人かわさき障がい者権利擁護センター模擬相談会／やまゆり広告
Ｐ．10 ･･･私たちの広場／手をつなぐ購読のお知らせ／ぜんち共済広告
Ｐ．11 ･･･親の会活動報告／寄付
Ｐ．12 ･･･海水訓練写真掲載／編集後記／令和８年度熊本地震お見舞い／もくじ

編集担当
三浦ルイ子
安達ゆかり
木村益美
梅田順子
美和とよみ

発行責任者　川崎市育成会手をむすぶ親の会　会長　加藤　敦子
〒213-0011　川崎市高津区久本 3-6-22　地域福祉施設「ちどり」
TEL：044-812-2966　FAX：044-813-1216　http://web-k2.jp/ikusekai-kawasaki